

講義コード	11C0286900	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	西津 伸一郎	開講期	通年
科目名	情報経済					西津 伸一郎		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	近年のコンピュータ技術の発達とともに、社会における情報の重要性が増大している。情報経済学は大別すると、ステイグリッツの非対称情報の経済学の視点と情報技術を経済システムの構造変化要因として捉える視点の2つがある。この講義の内容は後者である。講義は、はじめに変化を引き起こした基本技術であるデジタル技術についての解説を行う。そして、経済システムの変化がどのように生じたかを解説する。さらにIT技術の発展に伴う社会・企業の組織の変化、さらにIT関連企業をミクロ経済学の理論ではどのように捉えることができるかについて解説する。								
到達目標	文系人間と言えども、デジタルやコンピュータ・ネットワークについての概念の理解が必要な社会になっている。必要最低限と思われるデジタルの知識、コンピュータ・ネットワーク導入による企業組織の変化の理解を目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間は、120時間以上必要である。授業外学修のために課題を出す。履修学生は毎回締切日までに提出する。10～12回の予定である。								
授業計画	<p>【第1回】 第1期の授業の概要についての説明</p> <p>【第2回】 ネットワーク経済の見方①：インターネット</p> <p>【第3回】 ネットワーク経済の見方②：情報の共有</p> <p>【第4回】 ネットワーク経済の見方③：情報の集中大量処理</p> <p>【第5回】 ネットワーク経済の見方④：分散・並列・リアルタイム型処理</p> <p>【第6回】 ネットワーク経済の見方⑤：経済システムの変化</p> <p>【第7回】 ネットワーク経済の見方⑥：スピードの経済、地方分権</p> <p>【第8回】 情報化の流れと経済の変化①：コンピュータのダウンサイジング</p> <p>【第9回】 情報化の流れと経済の変化②：コンピュータと通信の融合</p> <p>【第10回】 情報化の流れと経済の変化③：通信技術の発達</p> <p>【第11回】 情報化の流れと経済の変化④：デジタル信号とアナログ信号</p> <p>【第12回】 情報化の流れと経済の変化⑤：デジタル伝送とアナログ伝送</p> <p>【第13回】 情報化の流れと経済の変化⑥：デジタル伝送の優位性・インターネットの誕生</p> <p>【第14回】 情報化の流れと経済の変化⑦：通信機能を持つソフトウェア・電気通信規制の自由化</p> <p>【第15回】 第1期の総括と補論および中間試験についての説明</p> <p>【第16回】 第2期の授業の概要についての説明</p> <p>【第17回】 インターネット①：層・網構造のインターネット</p> <p>【第18回】 インターネット②：通信ソフトの発展</p> <p>【第19回】 インターネット③：プロトコルの標準化</p> <p>【第20回】 インターネット④：パケット通信</p> <p>【第21回】 インターネット⑤：インターネット文化</p> <p>【第22回】 ネットワークの経済学①：電気通信経済学</p> <p>【第23回】 ネットワークの経済学②：限界費用ゼロの世界（1）</p> <p>【第24回】 ネットワークの経済学③：限界費用ゼロの世界（2）</p> <p>【第25回】 ネットワークの経済学④：限界費用ゼロの世界（3）</p> <p>【第26回】 ネットワークの経済学⑤：いかに価格を付けるか</p> <p>【第27回】 ネットワークの経済学⑥：ロックイン、スイッチング・コスト</p> <p>【第28回】 ネットワークの経済学⑦：ネットワーク外部性、取引費用ゼロの世界</p> <p>【第29回】 ネットワークの経済学⑧：ロングテールの法則</p> <p>【第30回】 第2期の総括と補論および学年末試験についての説明</p>								
成績評価の方法	課題提出と試験により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『IT 経済学入門』吉田和男（有斐閣）2002.12								
指定図書	『ビジネス・エコノミクス』伊藤元重（日本経済新聞社）2004.2								
参考書	『デジタルな経済』伊藤元重（日本経済新聞社）2001.2								
教員からのお知らせ	共有ストレージ（共有フォルダ）に、資料・課題・連絡事項を掲載します。また、課題レポートの提出等指示を掲載します。								
オフィスアワー	木曜日 4 限								
その他									